世界の国旗プリントシリーズ

世界の国旗一覧表【由来】

アジア

アゼルバイジャン
1918年から1920年までの国旗を修正して現在の国旗の形になった。上の青色はトルコ民族を表し、下の緑はイスラム信仰を表す。中央の赤は近代化への興新を表現していて、月のかぎの八角星はこの国に住む8つの民族に由来している。

アフガニスタン・イスラム共和国
この国のたくさんの政党や国旗に影響されて、国旗は20世紀の間に16回も変更されていた。一番新しい国旗は、アフガニスタン王国の時代のデザインをもとに、中央の黒の部分を緑にした部分を補正し、新憲法が施行されたのを機に掲げられた。

アラブ首長国連邦
連邦の7つの国のうち、フジャイラ以外は赤白2色の旗がある。連邦大統領国は、中央の白色の部分に、胸に国旗と7つの星をつけたタカの国章がデザインされている。

アルメニア共和国
1918年から1921年まで使用された旗の比率が変わったものが現在の国旗。赤色は共和国のために流れていった人たちの血を表し、青色は永遠の国土を表し、オレンジ色は勤勉と勇気を表現してデザインされている。

イエメン共和国
南イエメンと北イエメンの統合時にできた旗である。赤色は自由と勇志の終一のために流れた血を表し、白は掃けさる未来を表現。黒は、以前の暗黒の時代をイメージしてデザインされている。

イスラエル国
19世紀末のユダヤ建国運動時に使用されたものがモデル。白と青は、旗の上と下に使うショールの色に由来し、青人中には「ダビデの盾」が配置されている。ダビデの盾は、ユダヤ人が苦からおりりとして大切にしてきたものである。

イラク共和国
横に3色配置された旗の赤は勇気を、白は実直を、黒はイスラム教の伝統と栄光を表している。国旗の真ん中には、イスラム教を表す緑色のアラビア書道クーフィー体で、「アラーの神は偉大なり」と書き加えられている。

イラン・イスラム共和国
横3色緑・白・赤で構成され、白の周囲には「アッラー・アクバル（アラーの神は偉大なり）」とアラビア文字で11回、計22回書かれている。中央の4つの三日月と剣では、イスラム教徒の五行を表現したものである。

インド
サフランラ色は、自己犠牲の精神と勇気を表し、緑は農業技術と信仰、白は平和と真実を表している。しかし、本来はサフランラ色と緑はそれぞれヒンドゥー教徒とイスラム教徒に由来している。

インドネシア共和国
13世紀にできたマジャパヒト王国が赤と白の2色の国旗を使ったのが発祥。1928年にインドネシア国民党がシャツで最初に掲揚した。配色はモナコ国旗と同じであるが、インドネシア国旗は縦横比が2：3となっている。

ウズベキスタン共和国
上段の青は生命の源である水を表し、中段の白は平和を、下段の緑は実り豊かな自然を表す。間の赤い線は、生命力を表現。新月はイスラム教国であることと国の独立のシンボルであり、12個の星は王道十二宮に由来している。

オマーン国
1970年までは、赤一色だけの国旗が採用されていた。赤は侵入者に対して闘かを表し、緑は実り豊かな国土を表現。白は平和と繁栄のシンボルである。これは、オマーン古来の剣と短剣ジャンビルを組み合わせた国章である。

カザフスタン共和国
青色は、カザフスタンの遊牧民が育てた澄み渡った空の色を表し、平和と幸福のシンボルである。真ん中に描かれた黄色のワシと太陽は、それぞれ自由と明るい希望を表現している。これは、オマーン古来の剣と短剣ジャンビルを組み合わせた国章である。

カタール国
現在ではエビ茶色が正式な色であるが、もともとは赤が主現光線で酒色したものだといわれている。左側の白のジグザグ模様は、この国が9つの行政区で構成されていることを表すとともに独と行政区分とは関係ないという説がある。

カンボジア王国
独立してから何回も変更されているが、世界遺産のアンコールワット遺跡は、政権が変わっても いつも国旗のデザインに採用されていた。旧王国時代の国旗が復活したのは、1948年から1970年に使用されていたものと同じ。

キプロス共和国
国の中央にキプロス島をかたどったデザインが描かれ、その下にオリーブの枝がしゃらわれている。国連旗の色想と似通っている。オリーブの枝は、トルコ系とギリシャ系の国民の平和と協力を表し、黄色は古来からの特産品や銅などの豊富な地下資源を表現している。

キルギス共和国
赤地に、黄色で キルギス人の伝統的な移動式住居「ユルト」の天井と太陽が描かれている。太陽が放っている40の光線は、この国の代表的な40部族を表している。キルギス民族を統一した英雄マナスが旗国を使用したことと由来しているといわれている。

クウェート国
黒・緑・白・赤を配置したデザインで、この4つの配色はアラブ諸国で多く使用されるため共アラブ色といわれている。左側に黒の台形をあしらった珍しい旗で、以前のイラク国旗の影響が大きい。

サウジアラビア王国
地色の緑は、イスラム教の聖なる色である。右から左にアラビア文字で「アッラーのほかに神は存在しない。マホメット（ムハンマド）はアッラーの預言者である」と書かれている。剣は聖地のメッカを守護する意味合いを持っている。

ジョージア
12世紀から14世紀にかけて使われた中世グルジア王国（サアカシヴィリ大統領が率いる与党の「国民運動」の党旗にもなっている）をもとにして作られた。中央の大きな赤十字の四隅に4つの小さな赤十字を描いて、エルサレム十字と呼ばれている。

シリア・アラブ共和国
1932年に国家としてから国旗を6回変更している。ほとんどが赤・緑・黒のスラブ色を使用していて、現在の国旗は1958年から1961年までのアラブ連合国との合同国旗で復活した。赤は国旗を引き継ぎ、白は国の表面を、星は過去の誇りを、緑の星は美しい大地と諸国の統一を表す。

シンガポール共和国
最高度にまで上昇した1959年に、初めてされた、マレーシア連邦の一州時代には州旗として使用されていた。赤は世界全体の人類の平等を表し、白は独立後は インドネシアの国旗が復活した。赤は国を引き継ぎ、白は国の表面を、星は過去の誇りを、緑の星は美しい大地と諸国の統一を表す。

スリランカ民主社会主義共和国
独立した3年後、シンハラ語、タミル語、オランダ（ポラランダ）語の「トライ・ライオング」（三色旗）と呼ばれている。1916年までは赤地に白色をデザインした国旗だったが、国内を巡視していた国王がたまたま近に掲揚されていた国旗を見て、上下左右を反対にしても同じに見える国旗に変えたという逸話が残っている。

タイ王国
「トライ・ライロイング」（三色旗）と呼ばれている。1916年までは赤地に白色をデザインした国旗だったが、国内を巡視していた国王がたまたま近に掲揚されていた国旗を見て、上下左右を反対にしても同じに見える国旗に変えたという逸話が残っている。

大韓民国
赤と青のとええが中央に描かれている。ともえは韓民族に昔から親しまれてきたデザインで、旗の図柄は陰陽五行説に由来している。国旗の原案は、朝鮮王朝の末期の原案とも高原によるもの。

タジキスタン共和国
真ん中の紋章はさまざまな種族の人々の統一を表現。赤は主権と労働者を表し、白は統花と知識人、緑は農業物と農民の象徴である。赤・白・緑の配色がイランの国旗と同じなのは、タジキスタンの民族がイラン系であるから。

中華人民共和国
「五星紅旗」と呼ばれ、1949年に3000はどのデザインの中からコンテストで優勝した曾連松のものを修正して国旗にした。中国革命と中国人民の一致団結のシンボルであり、階級や民族を表すという説は否定的である。

朝鮮民主主義人民共和国
上下の青いラインは平和への関心を表し、赤は人民の不屈の精神と社会主義であることを、星は朝鮮労働党の指導的役割を表現。白は古来からこの国の人たちが親しんできた色で、純潔と光明のシンボルである。

トルクメニスタン
独立してから3つの国旗にあった。地色の緑はイスラム教を表し、新月は明るい未来を、5つの星は4つの国を表している。旗竿側に白産業の統色模様が描かれ、各部分はトルクメン人のまなう部族を表現。模様の下側にはオリーブの枝が配され、永世中立のシンボルとなっている。

トルコ共和国
アイ・イルディズ（月と星）と親しみを込めて呼ばれる新月旗。オスマン帝国の初代皇帝の夢に三日月と星が出てきて、将来コンスタンチノープルを征服することを予言したという逸話が残っている。

ヨーロッパ

アイスランド共和国
同じデザインで青と赤を取り替えるとノルウェーの国旗になる。白と青は民族衣装として衰年国民に親しまれてきた色で、1897年に非公式に取り入れられた旗も、青地に白の横長のタ字が描かれたもの。

アイルランド
以前のアイルランドの旗は、緑地に黄色のハープ模様の非公式のものだった。左端の緑色は力トリックを、右端のオレンジ色はプロテスタントを表し、中央の白は民族間が融和することを表現している。

アルバニア共和国
双頭のワシは、15世紀に民族の英雄であるスカンデルベグが掲げた旗から受けついだもの。アルバニア人は、ワシの子孫と いう伝説に由来する。社会主義政権がくずれ、以前はあった星のデザインがなくなった。

アンドラ公国
紋章と色のデザインが、フランスとスペインの国旗の影響を受けている。1866年に国旗が掲げられてから、さまざまな歴史の変遷を経て、1996年に現在の形に落ち着いた。

イギリス（グレート・ブリテン・および・北アイルランド連合王国）
イングランドの白地に赤十字、スコットランドの青地に斜め赤十字を組み合わせて、アイルランドの白地に斜め赤十字を足して適合王国を表現している。

イタリア共和国
緑・白・赤の3色は、ナポレオンが作ったチザルピーナ共和国旗からきている。イタリア共和国は1946年に共和国となり、1946年に比率を変更して今の形になった。青は空を、黄は小麦を表している。

ウクライナ
青色と黄色は1848年に独立を目指した民衆がシンボルとして掲げたもので、1918年から1921年まで短期独府の国旗としても使用、1996年に比率を変更して今の形になった。青は空を、黄は小麦を表している。

エストニア共和国
1884年にエストニア学生会によって制定され、ソ連邦から再独立した際にまた国旗として復活した。青色は空と自由を、黒は祖国の大地を、白は自由への思いと熱い未来のシンボルとなっている。

オーストリア共和国
上段から赤・白・赤で構成されていて、十字軍が遠征した時代に、オーストリア辺境伯の白武が敷の返り血でベルトの部分を除いて赤く染まった故事に由来している。段所の国旗には、黒いワシの紋章が描かれる。

オランダ王国
16世紀後半のスペイン戦争時代に、オレンジ公にちなんだ上段からオレンジ・白・青の旗を使っていたのがもとになっている。その後、オレンジ色を赤色に変更したが、それは深で変色しやすいからといわれている。

ギリシャ共和国
もともとは、青に白十字の旗を、独立戦争の際のトルコ3の赤の枝が飾られたものを表している。9本の横線は、独立戦争時代の「Ἐλευθερία ἢ Θάνατος.（自由か死か）」の9音節に由来する。

クロアチア共和国
赤・白・青は、スラブ地域で頻繁に使用される色である。海上で使用される国旗の比率は2：3である。真ん中に配置された国章は、古クロアチアの5地域を表現する紋章と、民族の模様であるチェック柄がデザインされている。

サンマリノ共和国
白と青はフランス革命の後から使用されている。青は聖とアドリア海を表し、白はディチノーの雪とたなびく雲、さらに純粋さを表現している。政府の国旗には、3つの城と、王冠などがデザインされた紋章がついている。歌歌の下にはイタリア語で「自由（LIBERTÀ）」と書かれている。

スイス連邦
ローマ皇帝が1240年にシュビーツ州議会に対して制定した旗がもとになっている。1848年連邦軍の旗となる。除上用の旗は正方形であるが、水上用の旗は比率が2：3である。十字はキリスト教のシンボル。

スウェーデン王国
模表の十字架はスカンディナヴィアンクロスとの呼び名があり、北欧諸国に共通して使用される。青と黄色は国章の色に由来していて、青は誠を表し、黄は金色に輝く太陽を表現。陸軍6月6日は国旗の日として祝祭を行う。

スペイン
「血と金の旗」とも呼ばれ、赤と黄色は13世紀頃の40の王国の王冠に使用されていたものとなっている。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランコ時代はワシのマークが入っていた。現在の旗要は各ビイリア半島の5つの王国の歴史とヘラクレスの柱をデザインしたもの。

スロバキア共和国
1848年にはじめて掲げられた旗は、スラブ民族のシンボルである白・青・赤の三色。スラブ語の3色旗だった。チェコと分かれたときに、ロシア連邦の国旗と見分けがつくように国章をつけ、ロシアの国旗は、赤白の順番になっている。1918年にスロバキアが独立した際、ロシア連邦の国旗と区別がつけやすくするために、ロシア連邦の国旗の順番を逆にした。

スロベニア共和国
白・青・赤の汎スラブ色は19世紀から使用されていた。1848年の革命の際に、ハプスブルク王朝の紋章の入っていた国旗を、ハプスブルク王朝の紋章を取り除いて、国旗には、国土にある最高峰のトリグラフ山をかたどったものと、川と海を示す2本の波線、3つの金色の六芒星がデザインされている。

セルビア共和国
1930年に作られたセルビア公国の国旗がもとになっている。赤・青・白はスラブ民族独立の象徴となる色である。中央からやや左寄りに国章が配置され、国歌には王冠と双頭のワシが頭に載を持った「ララジュ」とピッチ家の紋章」が描かれている。

チェコ共和国
旧チェコ・スロヴァキア連邦共和国の旗を、スロバキアが独立した後もそのまま使っている。連邦共和国旗時、1990年から1992年までのチェコ共和国の国旗には紅白の横2分割の旗だった。

ドイツ連邦共和国
黒、赤、黄（金）の3色は、19世紀のはじめにナポレオン軍との闘争に加わった学生義勇軍の軍服の色に由来する。黒・赤・黄はそれぞれ勤勉・情熱・名誉を表現していて、ドイツ国歌のシンボルである。政府用の国旗には7つの紋章が入る。

デンマーク王国
現在ある国旗の中で最古といわれ、スカンジナビアクロスの先駆け。1854年以降は市民用としても使われている。1219年のエストニア人との闘争のとき、国王のもとに旗が降りてきたのを きっかけにして逆転勝利したという言い伝えがある。

ノルウェー王国
かつてはスウェーデンとデンマークの支配下に置かれていたが、2つの国の国旗を組み合わせた図案になっている。北欧諸国の習慣として政府用の国旗は燕尾形をしている。

パチカン市国
パチカンの国旗は正方形。19世紀の初頭に教皇ピウス7世によって黄と白の旗に決められた。右側の国旗には、三重冠と呼ばれる教皇が公式行事の際に かぶる冠と鍵が、交差する金と銀の鍵は聖俗権限で教皇が叙配することを意味している。

ハンガリー
赤・白・緑の3色旗。フランス革命の影響を受けて正式に採用されたものだが、動乱期をこの3色は使用されていた。赤は情熱に血の犠牲と強さを表し、白は清らかな国民の心と忠実を、緑は希望を表現している。

フィンランド共和国
独立する前にいろいろな国の旗案がされたが、詩人ザクリス・トペリウスによって提の白と銀の青とそがフィンランドにふさわしいと主張され、それを採用。1978年に青の色調が変わった。北コーロッパ諸国に多いスカンジナビアクロスのデザイン。

フランス共和国
以前はさらに赤・白・青だった が、国王が青だと海の上では色が溶けるんで紅白の2色旗のほうが見えるため、左から青・白・赤に変更した。赤と青はフランス革命が権子につけた権勢に由来し、白は国王の象徴である。独立してから3番目となるこの国旗は、政党が調和するために全政党の旗色を組み合わせた。

ブルガリア共和国
以前はたから赤・白・青だった が、国王が青だと海の上では色が溶けるんで紅白の2色旗のほうが見えるため、左から青・白・赤に変更した。赤と青はフランス革命が権子につけた権勢に由来し、白は国王の象徴である。独立してから3番目となるこの国旗は、政党が調和するために全政党の旗色を組み合わせた。

ベラルーシ共和国
かつては社会主義の象徴である ハンマーとカマ・鎌が描かれていたが、国民投票の末にこれを除外して旧ソ連邦時代の国旗に戻した。赤は栄光を表す鎌を表し、緑は未来を表現している。

ベルギー王国
政府用の国旗の比率は13：15である。黒・黄・赤は、黒字に赤い爪と赤の黄色いライオンを除外して旧ソ連邦時代の国旗に戻した。赤は栄光を表す鎌を表し、緑は未来を表現している。

ポルトガル共和国
王族時代には青・白・赤の3色で構成されていた。

ボスニア・ヘルツェゴビナ
三角形はこの国のシルエットで、黄色と青は ヨーロッパ連合の旗にもなっている。星の数は、1992年に独立した際に、国連に加盟した9つの共和国を表現している。

ポーランド共和国
白と赤は中世から使用されてきた色。ポーランドが分割してからは、外国の支配から独立を目指す象徴色となった。赤は独立運動で流された血を表し、白は平和を表している。赤は愛国心と忠誠を表し、白は純潔と忠誠を表現している。

マケドニア旧ユーゴスラビア共和国
赤地に8本の光線を描いた黄色いた太陽の旗。1992年に採用した国旗は、アレキサンドロス大王にちなんだ赤の紋章を配した旗だったが、ギリシャが反発し、そこで太陽模様の数を半分にすることでこの旗を作った。ことにちなでいる。

マルタ共和国
左上に記された十字は、住民がナチスドイツに抵抗したのを記念して イギリスから贈られたジョージ勲章に由来する。一説によると、中世にノルマンから が紅白でこの旗を作った。

モナコ公国
赤と白の2色は、13世紀以降にこの土地を支配し続けてきたリマル ディ公家の紋章の色。14世紀からモナコの国民色になっている が特別な意味はない。政府用の国旗は白に紋章を配した デザインである。

モルドバ共和国
中央の国章を除くと隣の国のルーマニアと同じである。モルドバとルーマニアは同じ民族であるため深く関わっている。異人中の国章は19世紀末で存在したモルダビアとワラキア民公国の紋章にちなんだものの、ワシとシンの頭などがデザインされている。

モンテネグロ
赤地で周囲を金色で縁取り、真ん中に王冠をのせた双頭のワシが描かれている。ワシの胸には聖ワル コ のライオンが ふ い に 描 か れ て い る。王冠は王国の象徴である宝珠・王笏をつかんでいる。

ラトビア共和国
世界中の国旗の中でも、もっとも古い旗の1つである。1279年のローリヤ騎士団との戦闘で、指揮官の白い布についた血の色にちなんでいる。再独立のとき に1918年から1940年に使用された旗をもう一度採用した。

リトアニア共和国
中世時代のリトアニア大公国は、白地に騎士モデイゲンしたを使用していたが、今は1918年の独立時の旗の比率を変更して使っている。赤は祖国愛と勇気を表し、緑は豊かな森と希望を、黄色は小麦が実る平野と自由の象徴である。

リヒテンシュタイン公国
赤と青は、18世紀のヴェンツェル大公の使用人の制服にちなんだものと、それぞれ国旗で燃える火と教皇を表現している。1936年のオリンピックでは、バイオの国旗と同じで平等な社会を目ざしている。1875年の憲法で国旗のデザインを変えることを禁止したので、その後イギリスの支配を受けて独立しても国旗はずっと変らなかった。

ルクセンブルク大公国
上段から赤・白・水色の横線が描かれ、この3色は国旗の色から きているが、フランス革命の影響がありで1815年に採用した。オランダの国旗に似ているが、青色の濃さと比率が異なっている。

ルーマニア
左から青・黄・赤の3色は、19世紀末で存在したワラキアとモルダビアの2つの公国の国旗に由来している。王国時代や社会主義の時代には国章を配していたが、今ではつけられていない。

ロシア連邦
帝政時代の国旗を復活させたもの。ピョートル大帝がオランダ国旗の色から とり、白・青・赤はスラブ3民族と呼ばれる。かつてのソ連邦時代に使用した赤旗は、社会主義国の旗のモデルとなった。

アメリカ

アメリカ合衆国
左上の旗マークの位置には、州の数と同じ50の星が散りばめられている。旗国は独立した13州に由来する赤と白のストライプ13本で構成されている。一番はじめに できた星条旗から26回も変更を重ねた。

アルゼンチン共和国
真ん中に描かれている「5月の太陽」は、対スペイン戦争時の白の太陽に由来していて、共和国の自由の象徴である。金色の5月の太陽は、大統領国にもデザインされている。

アンティグア・バーブーダ
自治政府を立ち上げたときの国旗コンテストで優勝した旗を使用している。黒は国民を表し、青は海、白は砂浜、赤は太陽を表している。赤は、未来へ向かってマイ国民の活力をイメージしてデザインされ、V字は勝利をイメージしている。

ウルグアイ東方共和国
青と白のストライプの部分の象色は自由を、白は平和を表している。カントンの「5月の太陽」は、ウルグアイの独立精神のシンボルである。9本の線になっている は1930年の独立時の州の数になる。独立を助けたアルゼンチンの国旗の影響を受けたデザインとなっている。

エクアドル共和国
黄・青・赤の配色は、以前コロンビアとベネズエラとともに構成していたグランコロンビアの国旗に由来している。白道路の建物物に掲揚する国旗に州と同数の星が描かれるのは、エクアドル独自の習慣である。

エルサルバドル共和国
青は空と海を表し、白は平和と調和のシンボル。19世紀前半に、この国を含んだ5カ国で構成していた中央アメリカ連邦の国旗がもとになってきた。政府用の国旗の比率は189：335と ら珍しいものであり、真ん中には国旗がデザインされている。

ガイアナ共和国
「黄金の矢民（金鏡民）」と呼ばれ、旗章学者ウイットニー・スミス博士が考案した。緑はジャングルの豊富な資源を、白は河川と水資源、黒は忍耐を表し、黄色は輝く未来と豊かな鉱物資源を、赤は国家建設の熱情のシンボルである。

カナダ
「Flag Debate」と呼ばれる国旗選定を めぐる100年もの大論争の末に制定された。赤と白はカナダの国旗で、真ん中のメイプルリーフは1800年のイギリス皇太子抗所の際から カナダのシンボルとされている。

キューバ共和国
1850年に、キューバの独立運動でナルシソ・ロペスが掲揚した旗案が由来になっている。3本の青い線は独立したときの3州を表し、2本の白線は独立運動に参加した者の強固な意志を表現している。赤は勝利を流された血で、三角形は自由と平等と博愛の精神を表している。

グアテマラ共和国
中央アメリカ連邦の国の色にちなんだ国旗で、両端の青は大平洋とカリブ海を表し、中央の白は平和と純潔を表現している。政府用の国旗には、1997年に中央の紋章が追加された。

ジャマイカ
はじめに考案された旗は沿岸カジニーカの国旗と見分けがつきにくかったので、デザインが変えられた。緑は天然資源と希望を表し、黄色は太陽の輝きと豊かさを、黒は国民の苦難と強さと創造性を表現している。黄色のX型は聖アンドリュースの十字架を表したも

スリナム共和国
緑はジャングルと平野を表し、白は正義と自由を、赤は進歩と繁栄を表している。黄色い星は民族の団結と輝ける未来のシンボルである。加えて緑は自然にちなの星を表し、黄色は太陽を表し、赤は自由と希望のシンボルである。

セントクリストファー・ネーヴィス
緑は農業と豊かな国土を表し、黒は大陽の光を、黒はアフリカ系の黒人を、赤は独立闘争を表現している。星は自由と希望のシンボルで、2つあるのは、セントクリストファー島（セントキッツ島）とネイビス島を表現したもの。

セントビンセント・グレナディーン諸島
青は空と海を表し、黄色は熱帯の大陽の光と美しい海岸を、緑は植物の豊かさと国民の活力を表現している。中央の菱形を組み合わせた V字形で この国の強さ文化を表現。独立のときに旗の中心部を広げて、紋章を菱形に変更した。

セントルシア
三角形はセントルシア島を表し、青地は大西洋とカリブ海を表し、白は美人と自人の団結を、黄色は大陽の光と国土を表現している。黒のくさび形は活火山セントルシのシルエットである。

チリ共和国
星条旗の影響を受けているが、青・赤・白の3色はチリの先住民が古来から使用してきた色である。青は澄んだ空と海、白はアンデスの雪、赤は独立闘争で流された尊い血を表現している。

ドミニカ共和国
ハイチから独立したための問題の赤・青の2色を採用して作られた。現在は2色が交互に配置されているが、独立した直後は白十字の上が青で下が赤だった。政府用の国旗には別紋・サシェ・聖書・十字架などが描かれた国章がついている。

ハイチ共和国
フランスからの独立時は、青・赤・白の3色旗を使用していた。配色の原だった。青は黒人を表し、赤は黒人と先住民の混血である人種の象徴である。政府用国旗には、1986年に変更を加えた国章が配される。紋章には ヤシの木・白の帽子・剣・黒人・大砲などが描かれている。

パナマ共和国
コロンビアから分離独立する際にアメリカの後押しがあったので、星条旗の影響を強く受けている。赤は民主党を表し、青は保守党を表現。白は両政党の和解と平和を表し、2つの星は国民の団結の象徴である。

ハバマ国
上下の2本の青ラインは、ハバマ周辺の美しい大西洋とカリブ海を表現。中段の黄色のラインは この国の魚々と砂浜を表し、左側の黄いろ角形は国民の強い団結の象徴である。独立する前は英国船舶旗の上にバッジを配した旗を使用。

パラグアイ共和国
表裏で政府が違うただ1つの国旗。表は国章で、裏は国章のマークである。国章のマークには、自由の帽子（フリジア帽）と呼ばれる奴隷から自由への解放のシンボルとライオンがデザインされている。

バルバドス
1966年に実施されたコンテストで優勝した美術家のグラント・ブレスコットの図案を採用。青は力が海と大平洋と空を表し、黄色は砂浜と麦を表現。真ん中のマークは海神ポセイドンの三又の矛である。

ブラジル連邦共和国
青い円は天体を表し、リオデジャネイロの空を1889年11月15日の朝に地球の外から見た形を表現している。27の星は連邦を構成している26州と連邦直轄区の象徴である。緑は森林、黄は鉱物資源を表現している。

ベネズエラ・ボリバル共和国
1811年以降は黄・青・赤の3色旗を使用していて、2006年に星の数が1つ増加。場りた星は解放者のシモン・ボリバルに由来するもので、チャベス大統領のボリバル革命のシボルとも なっている。国章には 蘭・熱帯果木・ヤシ・白馬・麦の束・月桂樹・ヤシなどが描かれて

アフリカ

アルジェリア民主人民共和国
1920年代に反フランス運動の指導者となったメッサリ・ハジが作り、民族解放戦線の旗として使われた旗。独立を機に国旗にした。この地域では、新月と星は幸運の象徴とされていた。

アンゴラ共和国
アンゴラ解放人民運動（MPLA）のときに使われた旗に、農民を表した農鎌用ナイフと、工業を表す歯車を表した簡単な計算式が描かれている。星は、アンゴラ共和国がMPLAの指導下になっていることを示している。

ウガンダ共和国
もともとはウガンダ人民会議の党旗に由来したもので、黒・黄・赤3色のストライプで構成されている。国旗の真ん中には国鳥のカンムリヅルを表している。黒はアフリカを表し、黄色はアフリカの資源豊かな国土を、赤は民族の融和と 国際の精神を表している。

エジプト・アラブ共和国
上段の赤は革命を、中央の白は輝かしい未来を、下段の黒は過去の暗黒の時代を象徴している。黒と赤は、ともに配置されている国旗である。アラブ諸国の独立の際に、国旗の見本となったので汎アフリカ色と呼ばれている。黒人中には ソロモンの印章が配置されている。

エチオピア連邦民主共和国
上段から緑・黄・赤の配色になって、古来からエチオピアで使用されてきたなじ赤旗に、緑は農業を、黄は太陽を表している。1995年、オリーブのデザインを少し変更した。

エリトリア国
3色の三角形で構成されていて、緑色は農業を表し、赤は立ておたに流された血を表現。青は豊富な海洋資源を、中央に描かれた黄色のオリーブの枝は 紅 戦 資 源 に 由 来 している。1995年、オリーブのデザインを少し変更した。

ガーナ共和国
上段から赤・黄・緑の「汎アフリカ色」。独立におって アフリカ諸国の独立国であるエチオピアの国旗にちなんでいる。黒色は変更した際新たに追加された。中央の星は、アフリカの独立運動の父といわれるガーナの初代大統領を表現していて、自由の誠と国旗を保護したデザインだった。

カーボベルデ共和国
青は空と海を表し、白は平和、赤は国の努力を表している。紅白の帯は この国が作られるまでの道のりを示していて、黄色の10星はカーボヴェルデ諸島の主な島の数である。独立したときには、もともと連邦の国旗を参考にしたデザインだった。

ガボン共和国
上段の緑は経済を支えている豊かな森林を表し、中段の黄色は ガボンを横切っている赤道と太陽を表現。下段の青は、水資源と南大西洋を象徴している。自治国だったときには、旗竿にフランス国旗をつけた旗を使用していた。

カメルーン共和国
左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成されている。緑は豊かな森林を表し、中段の黄色は ガボンを横切っている赤道と太陽を表現。下段の青は、水資源と南大西洋を象徴している。自治国だったときには、旗竿にフランス国旗をつけた旗を使用していた。

グレナダ
ちょっと面白いデザインのこの国旗は、独立時に採用された。7つの星は行政区を表現している。国旗は、緑と黄色と赤の3色で構成されていて、赤は国民と紋章を、緑は豊かな国土と農業のシンボル、左側の線のこと に描かれたものは、特産品のナツメグの実である。

コスタリカ共和国
青は澄みわたる空で永遠を表し、白は平和を、赤は国民の流しもりを表している。国旗は、3つの火山、大平洋とカリブ海、帆船などがデザインされていて、政府用の国旗には国章のもと に描かれたものは、特産品のナツメグの実である。

コロンビア共和国
黄・青・赤の3色で構成され、1930年まで続いたグランコロンビアの国旗から影響を受け除いてきたもの。上段の黄色は黄金を表し、下段の赤は犯罪主国スペイ を表現。段所の青は新大陸と自 宗主国スペインとの間の大西洋を表現しているといわれる。

ジャマイカ
はじめに考案された旗は沿岸カジニーカの国旗と見分けがつきにくかったので、デザインが変えられた。緑は天然資源と希望を表し、黄色は太陽の輝きと豊かさを、黒は国民の苦難と強さと創造性を表現している。黄色のX型は聖アンドリュースの十字架を表したも

セントビンセント・グレナディーン諸島
青は空と海を表し、黄色は熱帯の大陽の光と美しい海岸を、緑は植物の豊かさと国民の活力を表現している。中央の菱形を組み合わせた V字形で この国の強さ文化を表現。独立のときに旗の中心部を広げて、紋章を菱形に変更した。

セントルシア
三角形はセントルシア島を表し、青地は大西洋とカリブ海を表し、白は美人と自人の団結を、黄色は大陽の光と国土を表現している。黒のくさび形は活火山セントルシのシルエットである。

チリ共和国
星条旗の影響を受けているが、青・赤・白の3色はチリの先住民が古来から使用してきた色である。青は澄んだ空と海、白はアンデスの雪、赤は独立闘争で流された尊い血を表現している。

ドミニカ共和国
ハイチから独立したための問題の赤・青の2色を採用して作られた。現在は2色が交互に配置されているが、独立した直後は白十字の上が青で下が赤だった。政府用の国旗には別紋・サシェ・聖書・十字架などが描かれた国章がついている。

ハイチ共和国
フランスからの独立時は、青・赤・白の3色旗を使用していた。配色の原だった。青は黒人を表し、赤は黒人と先住民の混血である人種の象徴である。政府用国旗には、1986年に変更を加えた国章が配される。紋章には ヤシの木・白の帽子・剣・黒人・大砲などが描かれている。

パナマ共和国
コロンビアから分離独立する際にアメリカの後押しがあったので、星条旗の影響を強く受けている。赤は民主党を表し、青は保守党を表現。白は両政党の和解と平和を表し、2つの星は国民の団結の象徴である。

ハバマ国
上下の2本の青ラインは、ハバマ周辺の美しい大西洋とカリブ海を表現。中段の黄色のラインは この国の魚々と砂浜を表し、左側の黄いろ角形は国民の強い団結の象徴である。独立する前は英国船舶旗の上にバッジを配した旗を使用。

パラグアイ共和国
表裏で政府が違うただ1つの国旗。表は国章で、裏は国章のマークである。国章のマークには、自由の帽子（フリジア帽）と呼ばれる奴隷から自由への解放のシンボルとライオンがデザインされている。

バルバドス
1966年に実施されたコンテストで優勝した美術家のグラント・ブレスコットの図案を採用。青は力が海と大平洋と空を表し、黄色は砂浜と麦を表現。真ん中のマークは海神ポセイドンの三又の矛である。

ブラジル連邦共和国
青い円は天体を表し、リオデジャネイロの空を1889年11月15日の朝に地球の外から見た形を表現している。27の星は連邦を構成している26州と連邦直轄区の象徴である。緑は森林、黄は鉱物資源を表現している。

ベネズエラ・ボリバル共和国
1811年以降は黄・青・赤の3色旗を使用していて、2006年に星の数が1つ増加。場りた星は解放者のシモン・ボリバルに由来するもので、チャベス大統領のボリバル革命のシボルとも なっている。国章には 蘭・熱帯果木・ヤシ・白馬・麦の束・月桂樹・ヤシなどが描かれて

オセアニア

オーストラリア連邦
旗竿の部分にユニオンジャックが配置され、旗国には連邦の星 であるる独星と南十字星が描かれている。1952年までは、民 衆は青地の旗を使用できずに赤 字の国旗を掲げていた。

キリバス共和国
イギリス植民地のギルバート・ エリス諸島だった頃の紋章を ちょっと手直ししたもの。これ、 このような旗を紋章旗と呼んで いる。黄色で描かれた軍艦鳥は、 機敏さ自由を表し、青色の 波形模様は南大平洋の海洋国 であることを表現している。

サモア独立国
植民地化される以前のサモアは 紅白の国旗だったが、1948年 に青と赤の旗が復活し、さらに 翌年に星を1つつけ加えてきた。 左上に描かれている南十字星は、 この国が南半球に位置し ていることを示している。

ソロモン諸島
5つの星は、この国を構成する主要 島々を表現するとともに、南十字 星の象徴になっている。南太平洋 は三日月の豊かな海を表し、黄色 の約6クリッは大陽を、緑は自然と 豊かな国土を表現。青は海と空 用・軍用の船舶国旗、各々赤・青・ 白地に赤十字をデザインしたもの。

ツバル
独立時から1995年まで使用され た国旗が復活して採用された。 9つの星は、この国を構成 する9つの島を表している。 左上のユニオンジャックは英連邦 に属していた証しで、政府用の 国旗にはユニオンジャックの下 に国章がつけられる。

トンガ王国
国王が1862年の国会で「国旗には キリストの十字を配し色は十字架の 上で流された血を表現する赤を希望 する」と述べたことに由来する。 1875年の憲法で国旗のデザインを 変えることを禁止したので、その後 イギリスの支配を受けて独立しても 国旗はずっと変らなかった。

ナウル共和国
中央の黄色の横線は赤道を表し、 青地は太平洋を表現している。 ナウルの地理は赤道のすぐ 南の日付変更線の西にあるので、 中心を外れた場所にマークは 配置され、白は平和と平 等を表現。太陽は自由を表し、8 角の星はスペイン最初に感染し、 19世紀の天然痘の犠牲者 の社会用量の象徴となっている。

ニュージーランド
青地で左上にユニオンジャックを配し、南十字星を表す4つの星が 描いてある。植民地時代に は、ほかの英領諸国と同じように イギリス国旗相国のフライに バッジを配置した旗だった。 1869年に現在の旗の図柄を採用。

パスアツ共和国
横に黄色でY字形が描かれ、太平洋にあるパスアツの位置をデザ インしたものとなっている。黒 は肥沃な国土とメラネシア人を 表し、緑は農業を、赤は独立闘 争で流された血を表現。左側の 紋章はパスアツの聖なるシンボ ルで、野鳥の冠とジグザグ。

パプアニューギニア独立国
学生のスーザン・カリウの図案 を採用。赤と黒で鈴めに塗り分 けられた旗で、2色は伝統芸術 や民族衣装などに使用される国 民に親しみのある色である。左 下に南十字星が、右上には国鳥 のアカカザリフウチョウ（極楽 鳥）のシルエットがある。

サモア独立国
植民地化される以前のサモアは紅白の国旗だったが、1948年に青と赤の旗が復活し、さらに翌年に星を1つつけ加えてきた。左上に描かれている南十字星は、この国が南半球に位置していることを示している。

ソロモン諸島
5つの星は、この国を構成する主要島々を表現するとともに、南十字星の象徴になっている。南太平洋は三日月の豊かな海を表し、黄色の約6クリッは大陽を、緑は自然と豊かな国土を表現。青は海と空用・軍用の船舶国旗、各々赤・青・白地に赤十字をデザインしたもの。

ツバル
独立時から1995年まで使用された国旗が復活して採用された。9つの星は、この国を構成する9つの島を表している。左上のユニオンジャックは英連邦に属していた証しで、政府用の国旗にはユニオンジャックの下に国章がつけられる。

トンガ王国
国王が1862年の国会で「国旗には キリストの十字を配し色は十字架の上で流された血を表現する赤を希望する」と述べたことに由来する。1875年の憲法で国旗のデザインを変えることを禁止したので、その後イギリスの支配を受けて独立しても国旗はずっと変らなかった。

ナウル共和国
中央の黄色の横線は赤道を表し、青地は太平洋を表現している。ナウルの地理は赤道のすぐ南の日付変更線の西にあるので、中心を外れた場所にマークを配置した旗だった。1869年に現在